



柏崎市立博物館 学芸員

伊藤 啓雄

ITO HIROO

1973年 山形県出身
1996年 柏崎市へ

冬季収蔵資料展「むかしのくらしと道具」が開催されている市立博物館。コロナ禍の影響もあるが来館者の落ち着いた今の時季にゆっくりと時間を掛けて見学したい展示がある。それは、中世から平安、弥生～古墳時代を経て縄文時代へとさかのぼる考古エリアだ。担当学芸員の伊藤啓雄さんにお問い合わせすると快く解説を引き受けてくれた。

伊藤さんは天童市出身。新潟の大学で日本中世史を専攻、ゼミでは古文書から歴史を読み解く歴史学を学んでいたが同じ頃、平安・鎌倉・室町時代の遺跡が多く見付き、古文書以外のことから歴史を読み解くことができると気付き、考古学に興味を持つようになったと話す。

卒業後は柏崎市教育委員会で埋蔵文化財の学芸員として20年間遺跡の調査などに携わり、平成28(2016)年からは博物館学芸員として勤務している。

さて、博物館の考古エリアでまず目を引くのは、柏崎市内で出土した遺跡や遺物。ここでは現物の展示が行われている。国指定となっている弥生時代の下谷地遺跡や北陸でも有数の古代製鉄遺跡、軽井川南遺跡群など模型やイラストで細やかに表現された展示もあり、とて

も興味深い。縄文時代は丘の上だが弥生時代以降になると人は平地に暮らすようになる。地面に埋まっていた生活の跡があればそこは遺跡であり、そこからどのような遺物が出てくるかで時代もわかると伊藤さんは話す。さらに、出土した土器などを調べると、物や文化の大きな流れがわかる。また、あまり流通していない珍しいものが見つかった時、なぜかと考えると、そこに力のある人の存在が見えてくることもある。考古資料には古文書に綴られていない人々の日常や生活、物流など時代の背景が見て取れるという。

遺跡というと縄文・弥生時代を連想しがちだが柏崎地域には古代・中世の遺跡も多い。展示室では書写された経典を土中に納めた遺跡、経塚も紹介されている。墨で法華経が書かれた石、錫杖頭や伏鈕もあり、遺跡からは経塚を発願した人や僧など宗教や造営に携わった人々の存在が浮かびあがる。また、この頃には供養のために五輪塔や宝篋印塔、板碑などの石造物もつくられた。石材の種類、塔の大きさや形、刻まれた文字などに特徴がみられるが、信仰の様子、広い地域との物流や人々の交流のことなどがわかりやすく展示されている。そして、中世は武士が活躍した時代。柏崎地域にも城跡が多くあり、その中でも北条城跡は規模も大きく、堀や曲輪といった遺構も充実していて城を勉強するには良い場所だと伊藤さんは教えてくれた。

私たちが普段目にはしている場所には、先人たちの瑞々しい生活が存在していたことを遺跡は教えてくれる。雪が解け春になった頃、北条城跡をもう一度訪ねてみたいと思った。

お問い合わせ

柏崎市立博物館

TEL 0257-22-0567

営時 午前9時～午後5時(最終入館は午後4時30分)

月曜休館(祝日の場合は翌日) *12/29～1/3休館

入館料 常設展示 / 一般300円 小中学生無料

プラネタリウム / 一般200円 小中学生100円

常設・プラネタリウム共通 / 一般400円

*感染症拡大防止のため中止・変更になる場合があります。

最新情報はHPでご確認ください。



冬季収蔵資料展「むかしのくらしと道具」
3月14日(日)まで【入場無料】*常設展示は有料